

中央公民館だより



第60回 魚沼市堀之内一周駅伝大会

公民館事業の評価について

「個の学びの喜びを見出して」

社会教育委員・公民館運営審議会委員 山本 壽男



「すぐ近くにある史跡のお話を聞き、ふるさとの面白さを再認識した。周りを見る目が少し変わった。次回の講座も参加したいし、資料も探してみたい。」ふるさと再発見講座に参加した人の感想である。この人の中に学びの喜びや張り合いが生まれている。その喜びの中にこそ公民館事業を自信もって継続できるやりがいや改善の視点を見出すことが出来る。

公民館事業の参加者人数が増えた場合の評価として「講座内容が実にタイムリーであった、会場へのアクセスが良かった」とつい主観的な印象評価をしてしまうことが多い。印象評価は実に手取り早熟的を射た評価となるのだが、次の活動の発展に必ずしもつながらないことがある。各々の事業が一番大事にしたいことは何であったか、それをどの様な手続きで評価していくかは、評価の重要な視点であろう。また、学びは個に成立するので、参加人数という全体評価だけでなく参加者一人一人の充実感を捉えるため学習後にアンケートをとったり、直接聞き取ったりしてメモを溜め込んでいくことも必要である。

評価は、次の一手を生み出すための継続的で地味な作業である。次の事業内容や方法につなげていける多面的な評価活動にしておくことにより、事業の工夫を生み出し、学びを深める場として、より一層市民の皆様の積極的な参加を期待するものである。

公民館への要望と意見

公民館運営審議会から

魚沼市の公民館は新体制となつて四年目を迎えております。去る七月十日、運営審議会委員のみなさんからこれまでの公民館活動についての評価と、これからの課題について貴重なご意見をいただきました。今後はこれらを踏まえ、公民館事業の充実強化に努めなければならないという議論が、ここに参加した各公民館長と熱く交わされました。その主な内容を紹介します。

地域の古いものを大切に、それを誇りとするために

ふるさと講座が各地で好評のうちに進められております。神社、野仏、仏閣などを、その場所に赴いて学習することで参加者の知的好奇心が一層深まっております。このことは地域への関心と愛着が歴史と文化の学習によって、より確実になってくることを意味し、まちづくりの原点でもあることから、継続して実施されたい、ということでした。

また、私的な趣味や教養に偏りがちな事業に対して、これを批判する声も聞かえるが、学習の発展への工夫がなされなければならぬ、との指摘が注目されました。

人数だけでなく、参加者の満足度で評価を

公民館事業に参加された方が、どれだけ満足したか、ということは大変重要なことです。しかし、これまで参加人数にこだわり、内容の深化と発展がおろそかになっていないか、との意見は傾聴に値するものです。内容の充実が学習を豊かにし、参加者の満足度を深め、それによって、継続学習が成立することを忘れてはならないことです。

なによりも生活に必要な課題や

地域の課題にせまる学習の充実を

公民館では現在、結婚支援事業や家庭教育に関する学習は行われておりません。これらはいずれも、今日、切実な問題として関心がよせられており、小千谷市では、結婚支援事業が定着していることを参考に、魚沼市でもぜひ取り組んでほしいとの要望がだされました。子どもの家庭教育についても同様な意見が聞かれました。

公民館は民主主義の学校である。ということが古くからいわれてきました。人権と平和教育、住民自治の確立にもなう学習などが意図的に実施されることが求められておりますが、魚沼市ではこのことへの取り組みがどれほどなされているか、という観点からも事業評価が必要なのではないか。との指摘は真摯に受け止めなければならないと思っております。

住民自治の確立と地域コミュニティ活動の促進は、市の施策として展開されておりますが、これと連動する形で分館の役割が改めて問われていると同時に、環境・地域医療・福祉・市民の健康づくりなど、を視野に入れた公民館活動の充実が求められていくように感じました。

(文責 星野修美)

うおぬま市民大学

「野の神 野の仏 庶民の祈り」

魚沼市教育委員会と中央公民館は、7月14日、石仏にこめられた民間信仰について、「野の神 野の仏 庶民の祈り」と題して、うおぬま市民大学講座を開催しました。

私達の住む郷土に対する関心の高まりを受けて、今回は、暮らしの中にひっそりとたたずんでいる「石仏」の物語を取り上げました。普段何気なく見ている地域の石仏、石塔、石碑などの建立の意味や目的を知ることにより、見直してみるひとつのきっかけになるのではないかと考えてのものです。

講師は、昭和40年代から魚沼市・南魚沼市を中心に地域の石仏調査を行ってこられ、魚沼市文化財保護審議会会長の山之内喜七さんにお願いしました。山之内さんは、これまで、広神を中心に、「地域の再発見」の講座の講師として、公民館活動にご尽力い



ただいています。自らの足で現地を訪ね、実際に見聞きする調査を行っている、いまだに新たな発見があるそうです。

「民間信仰とは、自然への敬意であり、昔から日々の生活の中にあつたもので、長い歴史の中でその地域風土に合うような形で信仰されるようになった。魚沼市内には全体で4,300体もの石仏がある。」講座では、写真を多く使った分かりやすい説明に、211名の参加者からは、「地域に根差して、よく研究されている。当地の野仏が何のためにあつたのか分かった。」との意見が多く聞かれました。

うおぬま市民大学は、市民のみなさんがワクワク・ドキドキするような趣味やいきがいをみつけ、生活を豊かにするお手伝いをする「キッカケの場」です。市民大学での学びを契機に、更に地域の公民館講座や市の様々な講演会を活用いただいたり、生涯学習団体などを訪ねていただき、学びの輪を広げていただきたいと思います。



魚沼市に県内最古級の縄文遺跡が

〜黒姫洞窟遺跡〜

生涯学習課 高木 公輔

黒姫洞窟遺跡は、入広瀬地域大白川にある幅5m×奥行6mの縄文遺跡で、平成10年に調査を開始し、この9月で13年目を迎える。これまでに縄文時代の始まり頃から弥生時代に至るまでの生活痕跡が発見されている。調査の目的は、洞窟の使用の痕跡を詳しく調べ、魚沼地域の縄文文化の始まりを追求していくことと、今後、地域の文化財として保存・活用するためのデータの集積である。

昨年度、東京大学に依頼して、黒姫洞窟から出土した縄文土器2点と炭素の含まれている黒色の土について、放射性炭素年代測定を行った。その結果、今から約13000年前、縄文時代草創期の頃のものであることが判明した。それを受けて、今年5月には市教育委員会と洞窟遺跡発掘調査団（団長・小林達雄 雄國學院大學名誉教授）は、12次調査成果について報道発表を行っている。

考古学において、土器は、時間を計る「ものさし」である。土器の形や模様から土器の作成年代（編年）がほぼ確立され、相對年代による判定ができるようになったことにより、破片であっても大体の年代が判るからである（例えば火焔型土器であれば縄文時代中期など）。今回科学的な方法で測定された絶対年代が、相對年代とほぼ同じであることが裏付けられた。

新潟県内には阿賀町の室谷洞窟、小瀬が沢洞窟（いずれも国史跡）など、年代の古い洞窟遺跡が多くある。黒姫洞窟の資料は、それらと比較すると遺物の量は少ないものの、現場が荒らされておらず、当時の原形をとどめた貴重な状態である。

調査は洞窟天井に設置した蛍光灯の明かりをたよりに、土層を1枚ずつ把握しながら実施し、網目が2ミリのフルイを用いて掘り出した土を洗い、とても細かな資料も見逃さないように行っている。これまでに破間川流域では初となる弥生時代後期（約3世紀）の土器や炉跡などの生活の痕跡、縄文時代草創期の土器などが出土している。また、1万年前のサケ科の骨や、炭化した種子からはオニグルミやミズキなども検出され、当時の食生活も垣間見ることができるといえる。さらに、新発田市の板山産の黒曜石の石器の出土などは、当時の地域間交流を考える上でも貴重な発見である。

黒姫洞窟は、「縄文土器製作の始まり、旧石器から縄文時代への移行の状況、当時の自然環境の様子」などを解き明かす上で、出土品の一つ一つが重要な意味を持つてくる。現地では、草創期前半の土器が出土した地面から残り1m程度の土や礫（石）が堆積している。今後どのような発見があるのか期待が膨らむ。



11月3日(祝)10:00〜 広神コミュニティセンターにて 小林先生による講演会があります。ぜひご参加下さい。

磯部定治さんの講座から

〜小出北部公民館ふるさと歴史講座より〜

初回は、「下倉山城の攻防戦」、2回目は、「銀山平の今昔」、3回目は、「魚野川の川舟」の講座を開催しました。

最終回は、参加者全員から今までの感想や質問に対して、磯部さんから、丁寧な回答をいただきました。少し時間延長となりましたが和やかで活発な講義となりました。

魚沼の歴史・民俗の会から、地図や写真等の提供もあり、相乗効果でよりわかりやすい講座となりました。

アンケート調査の結果、参加者の約4分の1は女性であることに驚きました。

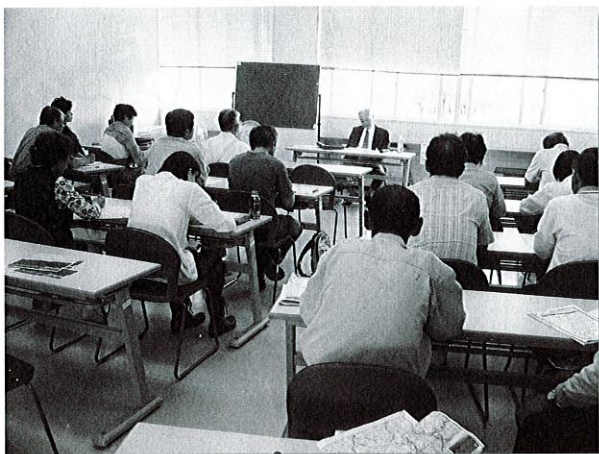


「一番有意義だったふるさと講座は何ですか」との質問では、第1位 魚野川の川舟43%・第2位 下倉山城の攻防戦25%・第3位 銀山平の今昔13%で、なかには「全て」との回答もありました。最終回、魚野川の川舟の評価としては、無回答を除くと、有意義であったと大変有意義だった合わせて、100%でした。

感想欄には、「経済活動と

人の生活の様子が具体的にイメージできました。」「治水対策がなかったことは、日本人の傾向でしょうか。」「私達の先祖が生きていた頃の身近な歴史を聞く事ができて、大変良かった。」「今後とも郷土のお話をお願いしたい。」「3回とも大変有意義で、自分の75歳まで親戚その他知人から聞かされていたことが整理できました。」「

「下倉山城が近くにありながら登ってなく、一度登ってみたいと思いました。」「今、50年のサラリーマン生活から家に入って農業をしながら、残りの人生を魚沼の人として暮（先祖1700年より）に入る準備をして有意義に日々大切にします。感謝しています。」「」などの声がよせられました。



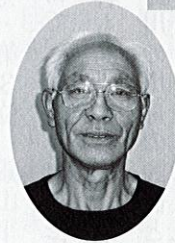
地区公民館の活動報告

参加者の
声
声

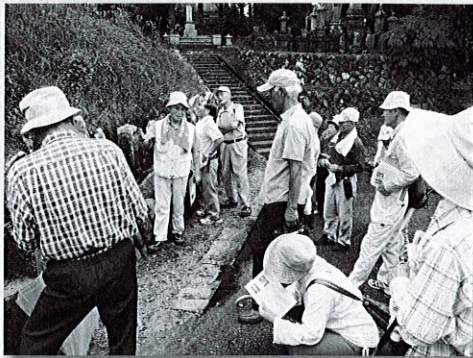
「山之内講師」地域の宝さがし教室

広神地区

重野 二二



七月中旬、小雨あがりの曇り空、午前の二時間三〇分コース、今泉大石神社・観音様・真福寺の主石に石仏。このコースは自身三回目の受講だが好きなコースである。参加者は集落以外の方もおり、熱心に聞き入っていました。以前、勤めの頃は、休日変更届けを出して臨みましたが、今は気軽で、その分じっくり楽しむことができました。数百年前、この石を運び、彫り刻み、据え付け、金を集めた人々のご苦労がしのばれます。現在の私どもの生活とは程遠く、すべて人力作業。昔の生活ぶりの一端がのぞけるような夢馳せる小半日でした。昔を今に語ってくださる方々がおられ、現地で説明を聞いた貴重な時間でした。この機会を作っていただき感謝。ありがとうございます。



今泉墓地入口（真福寺となり）

公民館名	館長	公民館主事	電話番号	FAX番号
堀之内公民館	星野 修美	今野 美紀・櫻井 竜馬	794-6026	794-4210
小出公民館・小出北部公民館	古田島 修	山田 悦子	792-5336	792-5336
伊米ヶ崎公民館	小林 和彦	梅田 恵	792-0082	792-0082
湯之谷公民館	星 政幸	桜井 永子	792-0530	792-0530
広神公民館	松田 光正	星野 京子	799-3227	799-2417
守門公民館	横山 治隆	平井 裕美	797-2261	798-3022
入広瀬公民館	佐藤 利昭	佐藤小百合	796-2322	796-2767

地区公民館の職員体制・連絡先

だんだん
どーも

先般、研究会の仲間と七年振りに台湾を旅した。中国語を全く話せない私でも、三泊四日の行程は終始楽しいものだった。それはひとえに、出会った現地の人々が、様々な場面で親切に接してくれたからである。メインの故宮博物院は今回で五回目の訪問だったが、こちらは今まで一番失望した。数年前に改築された院内は間取りがわかりにくく、照明も暗くなっていて、展示品の数は以前の半数にも満たないかとさえ思われた。

さて、昨今の対外情勢の雲行きが怪しい。領土問題の難しさは過去の歴史が明白に物語っているが、なぜか今の政治に信頼感が持てない。戦後公民館を設置した三つの大きな理由の一つに「民主主義・平和主義の獲得」があるという。平和ボケ、私欲、無責任等々に埋没した日本人に、本気で「基本的な人間力」を培う場の重要性を痛感する。(小林)

表紙の

第60回を迎えた堀之内公民館主催の町内一周駅伝大会。東洋大学も参加し56チームがタスキをつなぎました

編集兼発行人 魚沼市中央公民館長 星野 修美